

令和 6 年度 伊豆の国市地域公共交通計画の 進捗について

＜令和 7 年度 第 1 回伊豆の国市地域公共交通会議＞
令和 7 年 5 月 2 6 日（月）長岡庁舎 3 階第 1 ・第 2 会議室

1. 伊豆の国市の現状について

◆鉄道

- 伊豆箱根鉄道駿豆線が南北に縦断しており、市内に5駅立地

◆バス

- 伊豆箱根バス、東海バスが併せて4路線運行
- 市自主運行バスが2路線運行

◆民間タクシー

- 三島・沼津交通圏（長岡、韮山）と伊豆交通圏（大仁）にまたがっており、主に3社の民間タクシー会社が営業

◆予約型乗合タクシー

- 立花台・星和地区、立花地区で2路線運行



1. 伊豆の国市の現状について

◆令和5年度市民アンケート調査

- ・ 調査対象地域：伊豆の国市全域
- ・ 調査対象者：伊豆の国市在住の1,000人（回答数 435件）
- ・ 調査対象：16歳以上90歳未満より無作為に抽出
- ・ 調査対象期間：令和5年6月14日～令和5年6月30日

【調査結果】

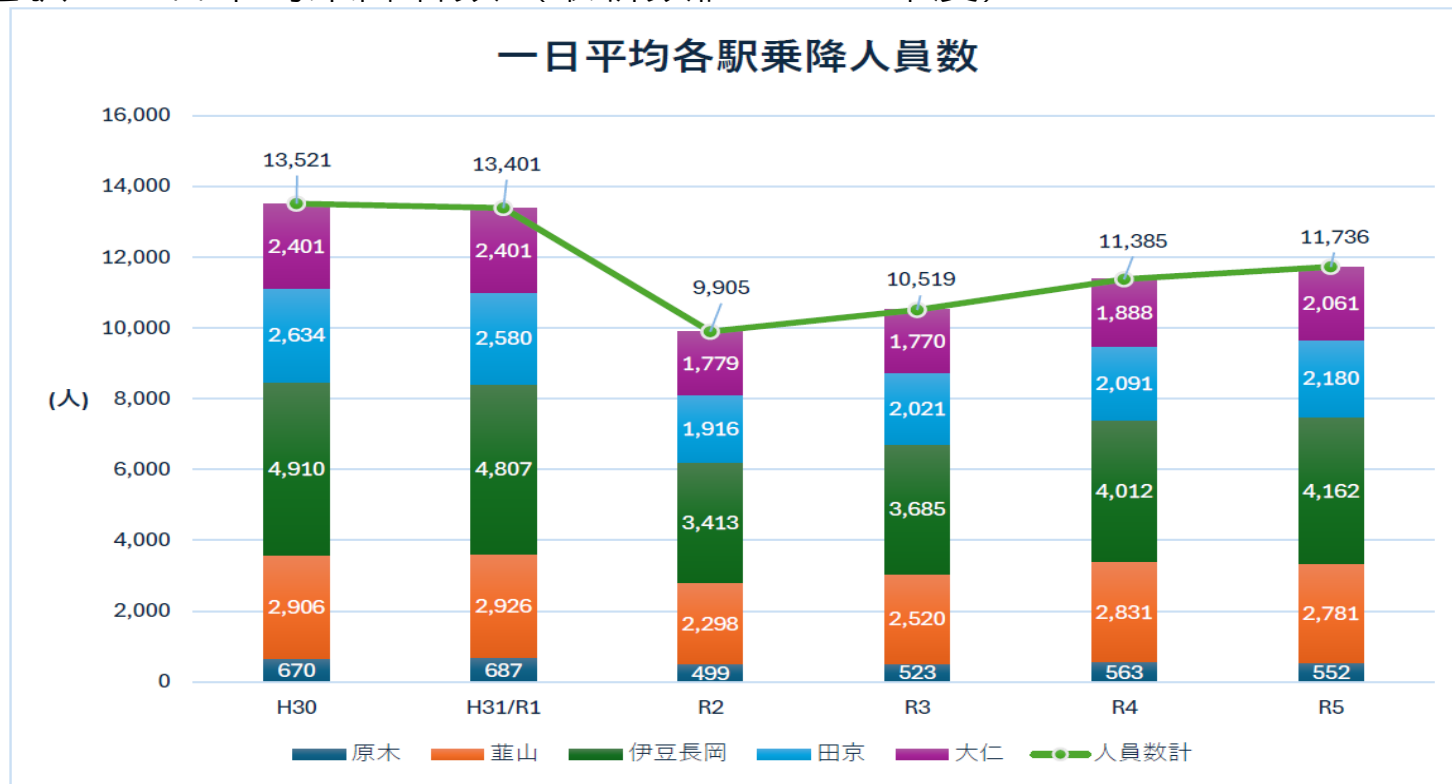
- 移動の際に利用する交通手段は自家用車利用 約7割
- 鉄道・バス・タクシーを日常には利用しない 約5割
- 買物や通院に不安を感じる（やや感じる） 約5割
- 地域の助け合い交通の必要性を感じる 約4割

👉 マイカー依存率が高い

👉 将来の公共交通に対する不安が大きい

1. 伊豆の国市の現状について

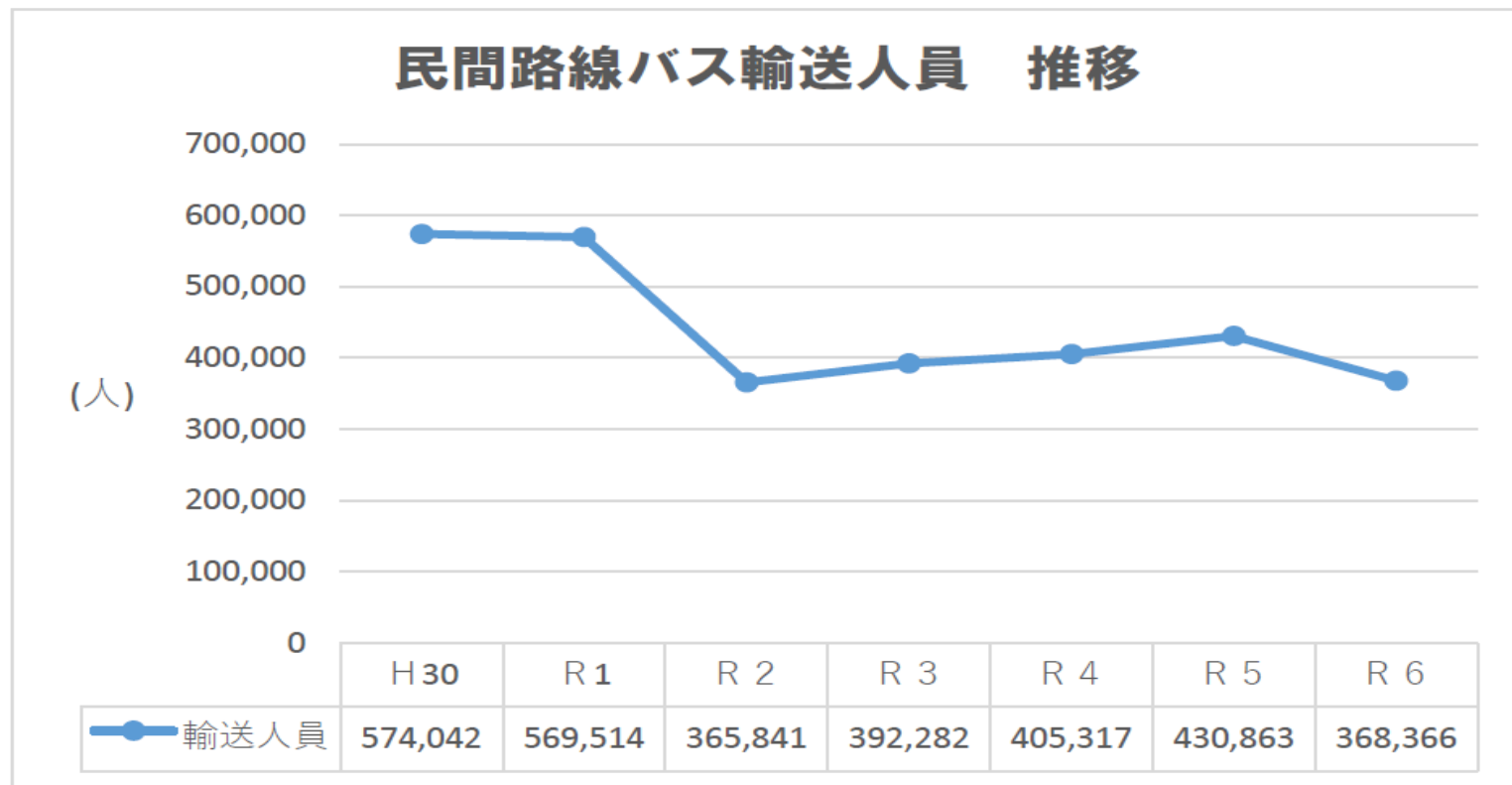
◆ 鉄道駅の1日平均乗降者数（最新数値がR5年度）



出典：伊豆箱根鉄道株式会社提供資料

1. 伊豆の国市の現状について

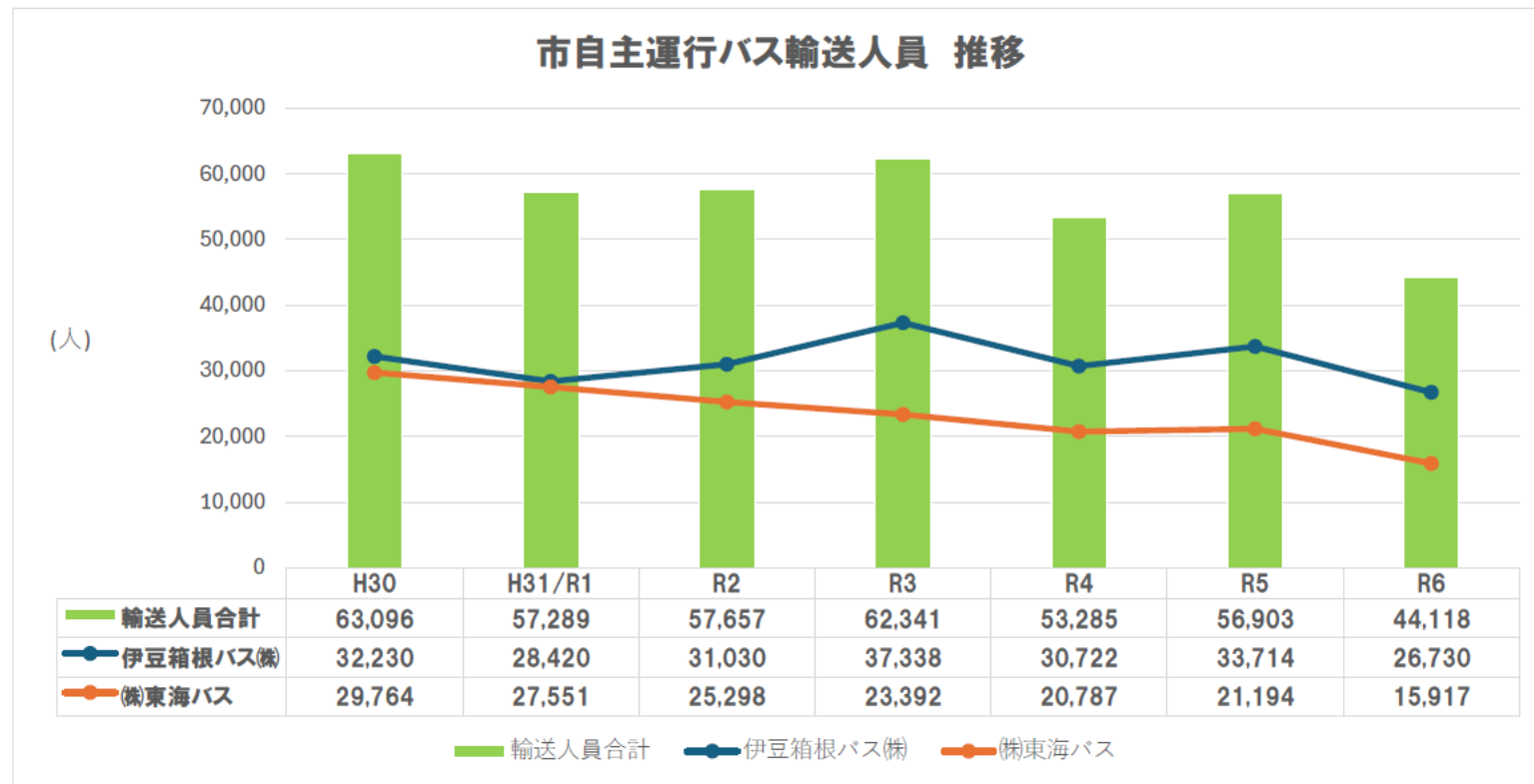
◆ 民間路線バスの年度別輸送人員の推移



出典：伊豆箱根バス株式会社提供資料

1. 伊豆の国市の現状について

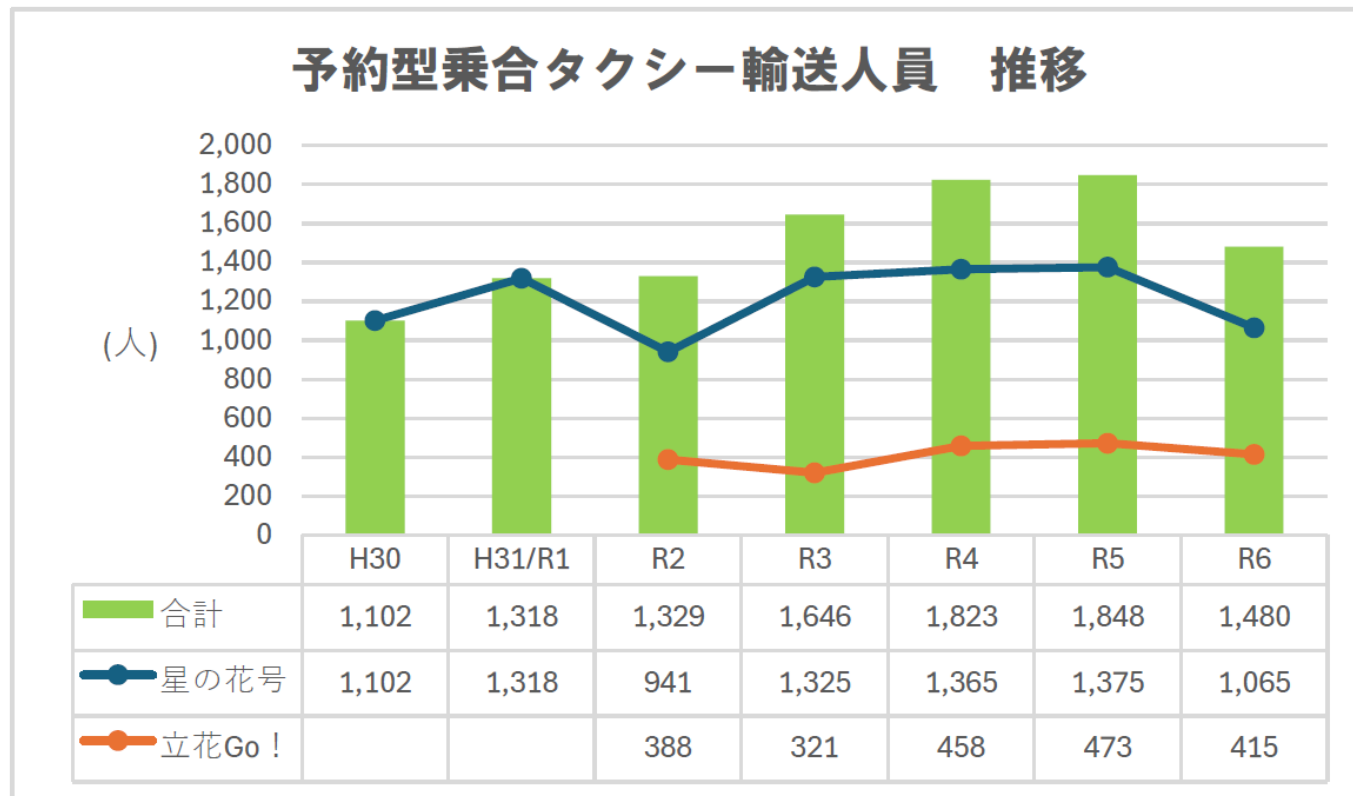
◆市自主運行バスの輸送人員の推移



出典：市政報告書、市資料

1. 伊豆の国市の現状について

◆予約型乗合タクシーの利用者数の推移



出典：市政報告書、市資料

1. 伊豆の国市の現状について

- ◆公共交通の利用者数は、人口減少及び少子化によって減少傾向となっている。

公共交通の需要縮小

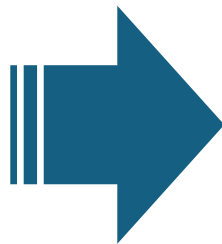
- ◆交通事業者の収支状況の悪化

公共交通の供給低下

- ◆高齢化による免許返納者の増加

- ◆インバウンドの回復

きめ細やかなサービスの必要性増大



- ◆当市が抱える地域公共交通の課題

【課題 1】

地域公共交通の維持が困難

【課題 2】

地域の実情に合った公共交通の不足

【課題 3】

来訪者等による個別輸送ニーズへの対応不足

継続的かつ効率的に地域交通を構築していくため、法改正※に基づき「伊豆の国市地域公共交通計画」を策定

※令和2年11月「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」改正

2. 伊豆の国市地域公共交通計画について

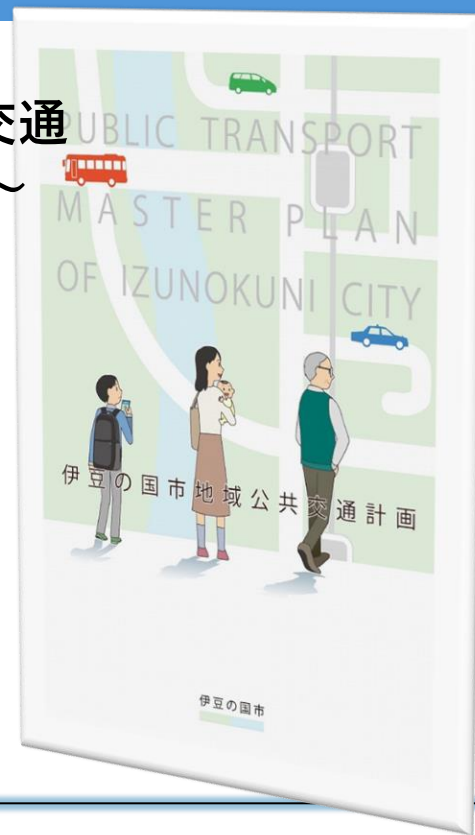
伊豆の国市地域公共交通計画（令和6年3月策定）

【基本方針】

豊かで快適な暮らしを人のつながりで支える公共交通
～協働によるきめ細かな交通システムを目指して～

- 目標1：地域公共交通の利用者の増大
- 目標2：交通ネットワークの最適化
- 目標3：市民主体による交通手段の構築
- 目標4：誰もが外出しやすい環境づくり
- 目標5：来訪者も利用しやすい交通手段の充実

**5つの目標を達成するための
事業と評価指標を設定**



2. 伊豆の国市地域公共交通計画について

基本方針と目標及び事業

本市における地域公共交通が抱える課題を踏まえ、本計画の基本方針と目標を以下のように定め、事業を実施します。
本計画の取組の進捗や実績は、「伊豆の国市地域公共交通会議」の中で報告し、評価や改善に向けた協議を図る体制を整え、委員の意見を反映しながら目標の達成に向けて取り組んでいきます。

<基本方針>

豊かで快適な暮らしを人のつながりで支える公共交通

一協働によるきめ細かな交通システムを目指して～

地域公共交通が抱える課題

【課題1】

地域公共交通の維持が困難

- ・公共交通利用者数の減少
- ・自動車依存度の高さ
- ・国、県、市からの補助に頼るバス路線の維持
- ・交通事業者では、コロナ禍による減収や働き方改革関連法の影響による人手不足等

【課題2】

地域の実情に合った公共交通の不足

- ・路線の統合や減便等の影響による不便な運行
- ・公共交通が利用できない場所の多くは商店や診療所も少なく、自家用車がなくなると移動自体が困難
- ・地域団体や民間事業所によるボランティアの移送サービスはあるがごく少数

【課題3】

個別輸送ニーズへの対応不足

- ・観光や歴史的な資源を多く持つ本市では来訪者の移動ニーズへの対応も重要
- ・市内の観光施設間の周遊手段や宿泊施設への輸送手段が不十分
- ・全国的に個別輸送サービスの取組は進んでいるが、本市では未実施

【目標1】 地域公共交通の利用者の増大

【指標1】 市民1人当たりの公共交通利用回数
基準年度（R4）：9.6回/人
目標年度（R10）：11.0回/人

【目標2】 交通ネットワークの最適化

【指標2】 公共交通の徒歩圏人口カバー率
基準年度（R4）：77.2%
目標年度（R10）：79.6%

【目標3】 市民主体による交通手段の構築

【指標3】
①市民主体による交通手段の導入件数
基準年度（R4）：3件
目標年度（R10）：5件
②地域との協議回数（累計）
基準年度（R4）：18回
目標年度（R10）：140回

【目標4】 誰もが外出しやすい環境づくり

【指標4】
①ユニバーサルデザイン車両の導入率
基準年度（R4）：52.0%
目標年度（R10）：70.0%
②福祉タクシー券の利用率
基準年度（R4）：67.1%
目標年度（R10）：75.0%

【目標5】 来訪者も利用しやすい交通手段の充実

【指標5】
①観光客の公共交通利用率
基準年度（R4）：22.0%
目標年度（R10）：30.0%
②レンタサイクル等の利用者数
基準年度（R4）：7,197人
目標年度（R10）：7,920人

【事業】

- 1-1 利用しやすいバス停留所の環境づくり
- 1-2 バスロケーションシステムの活用推進
- 1-3 バスの乗り方教室の開催
- 1-4 市民向け情報発信の充実
- 1-5 運転免許証自主返納の促進



▲田原野地区のパーク＆ライド



▲バスの乗り方教室の様子

【事業】

- 2-1 自主運行バスの運転内容の見直し
- 2-2 最適な輸送手段の検討及び導入
- 2-3 運転手の確保に向けた取組の推進
- 2-4 連携によるネットワーク強化



▲自主運行バスの車内の様子



▲予約型乗合タクシーの様子

【事業】

- 3-1 地域との交通手段の検討会の開催
- 3-2 地域主体の組織体制の構築
- 3-3 互助や共助による交通手段の導入支援
- 3-4 地域資源の調査、先進事例の研究



▲市長定例会の様子



▲ボランティア移送の様子

【事業】

- 4-1 小中学生に対する通学支援
- 4-2 福祉タクシー等利用券の交付
- 4-3 バス停留所の安全性と快適性の向上
- 4-4 バリアフリー化の取組充実



▲大仁小学校前バス停の様子



▲車椅子対応のUDタクシー

【事業】

- 5-1 レンタサイクル等の充実
- 5-2 個別輸送サービスの支援
- 5-3 MaaS等新たな技術の導入検討



▲シェアサイクルの様子



▲自動運転実証実験の様子
（静岡県道21号・新川町）

3. 伊豆の国市地域公共交通計画の進捗

目標	評価指標 👉 目標数値（令和10年度）	【参考】 令和5年度	令和6年度	評価
目標1	市民一人当たりの公共交通（乗合バス、タクシー）の利用回数 👉 11.0回	10.3回／人	8.9回／人	コロナ禍後は回復基調にあったが、減便等により利用者数が減少
目標2	公共交通の徒歩圏人口カバー率 👉 79.6%	76.9%	76.9%	令和6年度にバス停の新設や運行区域の拡大がなかったため、数値の増減なし。
目標3	市民主体による交通手段導入の延べ件数 👉 5件	3件	3件	令和6年度は予約型乗合タクシー2件、ボランティア移送1件であり、増減なし。
	地域との協議回数（累計） 👉 140回	15回	26回	山間地域の検討会、コミュタク委員会、市長と語ろう等を実施
目標4	UD車両の導入率 👉 70.0%	53.2%	55.1%	事業者の車両更新によって順調に導入率増加
	福祉タクシー券の利用率 👉 75.0%	67.6% (交付枚数：576,900枚) (利用枚数：390,188枚)	66.2% (交付枚数：約618,000枚) (利用枚数：約409,000枚)	利用数は増加しているが、利用率は減少。利用機会の拡大に向けた取組が必要である。
目標5	観光客の公共交通利用率 👉 30.0%	22.7%	(未算出)	－
	レンタルサイクル及びシェアサイクルの利用者数 👉 7,920人	7,067人	(未算出)	－